

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はあるが、継続性に欠ける。	職員一人ひとりが理念の書かれた冊子を所持し、随時確認しながら、日々の業務に活かしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的に交流できていない。	地域のお祭りに参加したり、フラダンスや高校生のボランティアや地元中学生の職場体験を受け入れている。また、地元の幼稚園とも交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のコミュニティーの場を通じて、相談等について、その対応策などを伝えて行く働きかけを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	報告や話し合いなど常に行っているが、意見、要望等、サービス向上に活かされているかどうかは難しい。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、入居者の生活状況を報告している。また、認知症の啓発、感染症対策や事故対策について、会議を利用して発信している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日頃から密に取れているとは言えない。	隣接する老人保健施設に地域包括支援センターのサブセンターがあり、随時、センターの職員と情報交換している。また、地域行事への参加について、連合町内会会長や市の方を交えて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	原則禁止。継続実施。	玄関は夜間のみ施錠。各ユニットの出入り口は安全のため常時施錠している。拘束は事故対策とも関係するので、委員会を月に1回開いて話し合い、確認している。また、言葉による拘束についても職員の情緒の安定への気づきを促している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉遣いなど、セルフコントロールが難しい面があり、継続性に欠ける。お互いに注意し合い増長しないよう努める。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	家人からの申し出もあり、その状況に応じて受診するなど、協力対応を取り、施設として活用できるよう支援実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	面会時等を利用し、不安や疑問点に対し、説明を行うよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、要望等、9同様に声を掛け、聞き出す様になっています。	職員が報告するよりも先に、入居者の生活状況について家族から質問されることが多くある。家族の入居者を思う気持ち強いことを職員は感じっており、運営等に反映されるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やリーダー会議で聞き取り。現在、毎朝のユニットのラウンドと個別での対応を随時行い対応している。	毎月1回、職員会議を行っており、職員誰もが意見できる場となっている。また、施設長が毎日全ユニットを巡回して、その都度、職員の意見や不平不満、個人的な悩み等を聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	継続して努めているが、労使間の意見や視点の相違などから、問題点は継続しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個々に実技実習にて実施中。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	電話連絡等はあるが、勉強会等の形では、関わる機会が中々持てないでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	聞いて・見て・触れて、本人を知る事が先ず第一だが、その都度努めてはいるが、継続性に欠け、経過で観れず、安心確保に今一步及ばずにある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	傾聴はするが、実施に及ばず。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その時々で、本当に望んでいる本人の安心した生活とは何かを検討、試み中。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	17項に同じ。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	17項に同じ。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設と今の現状では、継続支援に欠ける。	馴染みの人が面会に来たり、デイケアを利用して入居者の方がホームを覗いて帰ることはある。	自宅に帰る機会などを利用して、近所の人を訪問したり、馴染みの場所に立ち寄りして、継続した地元との関係作りに努めて頂きたい。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個々の生活空間を大切にすることが必要。何を持って孤立かの判断も関わり合いを保つ材料になっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	要望・求めに応じて、相談に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意思の尊重を大切にし、検討を重ね実施するように努めている。	職員は、日中居室に閉じこもりがちな入居者には居間で過ごすよう促し、疎外感を感じることのないような言葉かけに努めている。また、入居者と会話する際は、最後まで話を聞き入れ、思いや希望の把握に努めている。	思いやりを持って会話するあまり、慣れ合いになっている場面が見受けられた。入居者の気持ちに立ち返り、思いや意向の把握に努めて頂きたい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	努めているが、実際、施設対応に限界はあると思います。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	24項に同じ。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画するも、実施するも、本人を観て知ること。サービス提供は継続実施することを課題とし、計画を立てています。	カンファレンスで情報を共有し、職員や家族の意見等も聞き入れながら作成している。家族のみが知る情報を提供してもらうことで、入居者の生活習慣の継続に配慮した計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	26項に同じ。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	26項に同じ。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の把握が困難です。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿った支援を行うように努めています。	経営母体である医療機関と、緊密な連携が取れている。かかりつけ医においては、家族の希望があれば受診支援しており、トータルで管理できている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携を密に取りながら指導を受け、安定した体調が保てるように努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	経過を常に情報収集を行い、早期に日常生活に戻れる様に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	未だその地域での対応まで至らないが、先の不安についての方向性は、その都度伺い説明し、共に支援していくよう努めています。	終末期の方針について、入居時家族に説明し、同意を得ている。入居者の高齢化に伴い、職員の負担が増大してきているが、利用者や家族の希望に添ってできるだけ支援を行える様、カンファレンスの中で事例を用いて話し合い、共有するよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練まで至らず、定期で行えていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	未だ地域との協力まで至っていない。	年2回、隣接する老人保健施設と合同で、避難訓練を行っている。現在、地域住民の協力を要請しているところである。来年3月には消防署立ち会いの実地訓練を行う予定である。	運営推進会議を通して、地域住民の訓練への参加を呼び掛けているところなので、今後期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	この項目を実施していく為には、各職員の精神面のセルフコントロールが必要。未だ継続に欠けている。	職員の情緒が不安定になって、入居者の尊厳を損ねかねない対応があった場合、職員には自己への気づきを促している。また、職員同士で確認し合いながら、対応に努めている。	慣れにより、入居者に対する職員の傾聴や言葉遣いがおろそかになっていないか再度話し合ってほしい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけは行うが、36項が関係してきます。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	36項に同じ。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれの部分が行き届いていない。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	楽しみ方の工夫が必要。	嚥下困難な入居者のために、きざみ食やミキサー食など、調理法に工夫を凝らしている。老人保健施設で調理された物をホーム内で盛り付けし、職員と一緒に食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	生活リズムの中で、摂取支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事毎には実施。個々に応じたケアを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立の方針は継続。	夜間はポータブルを使用する人も、日中はできるだけトイレで排泄できるように誘導している。また、職員の熱心な自立支援によって、紙パンツや尿パッドが不要になった事例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	43項の中で個別に対応。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活のリズムの一部として個別対応を行っている。	清潔感を保持するために、1日おきの入浴が基本となっている。入居者の希望に応じて、夜間浴など、時間にとられない入浴支援が出来る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	45項に同じ。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の経過観察を徹底させています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日のその都度の散策の継続実施を行う。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在、単発で行う。継続性に欠ける。月間・年間を通じて計画が立てられるよう、季節感を取り入れながらの支援が必要。	家族が来て、墓参り等に出かけたり、気分転換のため、職員と一緒に他のユニットや隣接する老人保健施設によく散歩に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	必要に応じて、ご家族と相談の上、対応しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望・希望に応じて支援。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レイアウトは、その都度変えています。不快や混乱を招くことは無いが、変化に乏しいと思われ工夫を要す。	他の入居者と一緒に居ると安心するのか、利用者の多くは、広い居間でくつろいだ様子で過ごしている。壁には季節を感じさせる作品が貼られている。また、ソファや椅子、テレビの配置に工夫を凝らしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活の中で相性も含め、お互いの生活習慣や性格を把握し、バランスを取るよう努めています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個別にばらつきがあります。	利用者自らシーツを取り換えたり、居室を掃除したりして、自分の生活スタイルに合った環境に整えられている。また、観葉植物や家族の写真等が持ち込まれており、家庭的な雰囲気漂う空間である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	場所の認識については、表示等を設けて対応できることの工夫が欠けていると思います。		